

JAMトピックス

J
第
広
報
A
1
セ
ミ
ナ
M
回
ー

伝えたいことを明確に 苦勞した分自信がついた

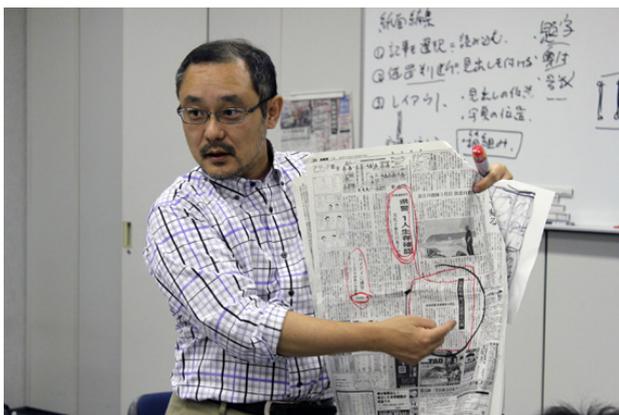
2012年11月07日
編集：JAM本部

広報技術の向上をめざすJAM第13回広報セミナーが10月25日から3日間、地方・単組の33人が参加し大阪にて開催した。新聞記者などの講師は「伝える内容を常に明確に」と強調。参加者からは「苦勞した分自信になった」などの感想が聞かれた。



<文章は伝えることを明確に>

今回のセミナーでは講師から「伝えることを明確に文章にする」「狙いがはっきりわかる写真を撮る」など伝える内容を常に意識することの重要性が強調され、最近では難しい書き方をしている傾向があるが、難しい内容こそ易しく書く必要がある。



<亀山講師による縦書き機関紙の作り方>

特に、見出しでは、紙面を顔とすると目や口や鼻に相当する、具体的に生きいきと訴えかけるものに。文章は、基本とルールを守って、①難しい内容ほど易しく書く、②書く内容を十分理解する。③声を出して読み途中でつかえないようになどを踏まえること。見出しや前文には一番伝えたい内容を盛り込むこと。本文にはその詳細を、重

要なことや結論を文頭に、補足や資料などを文末に書く逆三角形の記述方式で書くことなどを教わった。



<2日目には外へ出て展示会を取材>

セミナーは①機関紙（縦書き）の作り方、②文章の書き方、③写真の撮り方の三つの専門コースを設けて5名のプロによる講師陣で実施し、初日



<セミナーの様子を写真取材する>

は全員が労働組合の広報の基礎、文章の書き方、写真の撮り方について講義を受け、夜から翌日の午前中にかけては、グループに分かれて①文章の書き方の講義と実習、②見出しのつけ方の講義と実習で研修し、2日目の午後からは、各専門コースに分かれてより掘り下げた講義と教室を飛び出して、現場で取材をして記事に仕上げるまで実習やインタビュー形式の取材などを午後9時過ぎまで行い、最終日の午前中は全体講評にてセミナーを締めくくった。